

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人イエス団 空の鳥幼稚園		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 18日		～ 2026年 1月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 18日		～ 2026年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 20名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	インクルーシブ保育を充実させる思いを全職員が持ち、一人一人を大切に療育を行っていかうと話し合っていること。	併設されている野の百合保育園の職員とコミュニケーションを取る時間を確保し、互いの子どもを「みんなでみんなをみる」という意識が持てるように互いの子どもの事を知っていくようにしている。	互いの園の職員同士が互いの思いを知り、保育・療育を大切にしたい視点から学べるよう、園内研修や話し合いの時間をさらに持っていきたい。
2	医療的ケアのお子さんを複数名受け入れていること。	看護師や3号研修を受けた職員だけが受け入れるのではなく園全体で受け入れているということを意識できるように、医ケアに関する研修は年間計画を立てた上で全員で受けるようにしている。	「当たり前の園生活を体験してもらえらるために何が出来るか」を皆で考えるようにし、医ケアを理由に断らない、諦めない姿勢を維持する。そのために、医ケアを実施できる職員を更に育成していきたい。
3	他職種が連携を取り、それぞれの専門性を活かしながら個々の支援を検討し行っているところ。	各職員の専門性を高められるよう、外部研修・園内研修に積極的に参加するようにしている。	専門性のある内容が、職員同士での学び合い、教え合うことにつなげ、「この職員しかできない」ではなく専門性を分かち合えるようにし、個々がスキルアップしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	勤務時間外の業務が多いこと。	クラス間や部署間など連携を取る為に職員で話し合う時間を多く必要としている。勤務時間の異なる野の百合保育園職員との会議等もインクルーシブ保育を行う上で重視していることで、互いに話し合える時間が時間外になりやすい。	すでに今年度から検討し始めているが、業務効率化、業務見直しを行い、時間内で事務や話し合いの時間が持てるように、ローテーションに事務時間や話し合う時間を組み込んでいく。
2	医療的ケアのお子さんが通園バスに乗る時に、吸引・緊急対応ができる職員が不足しており、特定の職員にたよっていること。	看護師と3号研修を受けた職員は複数名いるが、その全員がバス業務に携わられてなく、勤務時間の兼ね合いや、実施に至るのに引継ぎ時間がかかり間に合っていない現状がある。	医ケアに携わることが特定の職員ではなく、職員が広く関わっていくことを何度も全体で共有する。医ケア実施の引継ぎ時間を十分にとれるようにしていく。
3	若手職員が少ないこと。	職員育成プログラムの整備が不十分であったこと。(若手職員の育成に必要な環境や、先輩職員が配慮していくことを職員全体で確認し合えてなかった。)	若手職員の育成に必要な環境や、先輩職員が配慮していくことを数年前に話し合い、今実践しはじめています。